

西国第七番 東光山

真言宗豊山派 岡寺（龍蓋寺）

觀音菩薩

現当二世のご利益

山主 川俣海淳

す。

西国三十三所觀音巡礼を巡
られている方にはすでにご存
知のことではあります。西国三
十三所觀音巡礼の由来は奈良
時代に大和國長谷寺を開山し
た徳道上人が病のため生死の
境を彷徨つた際に冥府で閻魔
王に会い、「生前の悪い行い
によつて地獄へ送られるもの
が多い故、觀音の靈場へ参る
ことにより功德が得られるよ

う、人々に觀音菩薩の慈悲の
心を説け」とのお告げを受け、
起請文と宝印を授かって現世
に戻され、人々に觀音信仰、
及びその靈場へ参ることをす
すめられたことに始まりま
す。

『三十三』という数字は觀
音菩薩が衆生を救うために、
三十三のお姿に変化するとい
う『法華經普門品』の教えに

ちなんでいると伝わります。
觀音の慈悲は広大無辺であり、
あらゆる人々の苦悩を救い、
願いを叶える『現世利益』の
觀音信仰であります。それ
のみではなく徳道上人が冥府
にて閻魔王と出会い『衆生を
くよう』と告げられた事に
見られるようにもともと觀音
信仰の功德には『來世往生安
樂』の要素が含まれております。
この徳道上人が冥府にて閻
魔王と出会い再びこの世に戻
されたという『冥府訪問譚』。
『蘇生譚』は、あらゆる人々
を墮地獄から救い、願いを叶
えようとする西国巡礼と觀音
信仰と結びつきました。さら
に時代が進むにつれ六体の觀
音によつて六道に迷う衆生の
往生を願う信仰『六觀音信仰』
も広まり現世利益中心であつ
た信仰と共に、往生淨土に

西国三十三所觀音巡礼は人々
の觀音菩薩への祈りが脈々と
絶える事なく一三〇〇年以上
続く巡礼道になります。

